

一時はどうなることかと心配したが、例年よりは少なくなったとはいえ、今年度も中学校の「高校説明会」に参加させていただき、梁川高校のことを中学3年生と保護者に説明させていただいた。パワーポイント（以下パワポ）のデータを持参し、それをもとに説明した。

私はいつもパワポと配布資料の兼ね合いで悩む。あるときは、パワポ中心で説明し、配布資料には補助的な役割を持たせた。またあるときは、配布資料中心で発表し、パワポは写真と会場の皆さんに読んでほしい言葉だけに絞ることもあった。パワポ中心の場合、そのデータを印刷して配布するかどうかという問題も発生する。何度も自分が聞く方の立場になったことがあるが、パワポデータがほしいと思ったことは一度や二度ではない。

高校説明会では、印刷したパワポデータは配布していない。視覚に訴えるスライドの作り方をし、それをスピーディーに出すようにしている。だが、もしかしたら、もう一度パワポのスライドを見たいという中学生がいるかもしれない。そこで今年度は、ホームページにパワポデータをアップすることにした。コロナ禍の影響で、高校説明会を行わなかったり、体験入学に参加できなかったりした中学生もいることにも配慮してのことである。

もはやパワポを使うことが当たり前のようになってきている。パワポを使うと、それらしくなるのは事実である。スライドの枚数によって、ある程度の時間の見通しが立つ。説明が抜けることも避けられる。計算が成り立つのである。しかしである。聞く方の立場になると、どうなのであろうか。いつも考えさせられる。

写真データなら見やすくよい。だが、文字がたくさん入った表などには適してはいない。文字が読めないスライドを見せられることもある。雰囲気しか伝わらない。

パワポスライドや資料の文字の間違いを見つけてしまうこともある。自分では自分のミスを見つけるのはむずかしいということを知っておいたほうが良いと思う。当事者は「早く終わらせたい」し、なんだかんだ言って教員はプライドが高いので、最初から「間違っているはずはない」と思い込んで自分の原稿等を見ているものである。だから、ミスを見つけることはできない。よく「ちゃんと見たんだけどな」と言い訳をしている教員がいる。最初から「まちがいはあるはずだ」と思って見ていくと、少しは自己チェック機能が働くようになる。

では、どうすればいいか。チェックは人に頼むのである。原稿点検に限らず物事は重層的、複眼的に見ることが大切である。自分では限界がある。信頼できる人に見てもらうことである。もし、自分で点検しなければならぬときには、一度作成したら数日間そのままにしておく。そして、数日後改めて自分の原稿を読む。その最初に読んだときに感じたことが重要である。文字の間違いや「、」の位置、主語と述語のねじれ、修飾語の使い方など、気になることがあるはずである。まず直す。また数日間そのままにしておく。数日後再び読む。また直す。このような作業を行って精度を上げていく。自分の原稿を熟成させるイメージである。これはパワポデータも同様である。ただし、数日間空けないと作業をしてもさほどの効果はない。

パワポのミスは一目瞭然で恥ずかしい。人のミスには、その人特有の傾向がある。それを知っておくと、自分でもミスを見つけやすくなる。人は、難しいところではミスをしない。ごくごく簡単なことでミスをする。代表的なのは、日にちと曜日のズレである。

これからもパワポと付き合っていくと思うが、相手によってパワポと配布資料の兼ね合いを考えていくのがよいと考える。したがって、パワポを使わないことも出てくるであろう。まずはパワポありきではない。相手意識が重要である。